

白神通信



【ブナの実生】

[contents]

- ◆ 特集 「400年ブナ」倒れる～次の世代へ～・・・・・・・・・・ P2
- ◆ 令和3年度 中・大型哺乳類調査を終えて・・・・・・・・・・ P5
- ◆ 第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)・・・・・・・・ P6
- ◆ 藤里町に移住して 白神山地世界遺産センター(藤里館)
自然アドバイザー 白鳥 万里・・・・・・・・・・ P7
- ◆ 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

藤里森林生態系保全センター
令和4年6月17日 No.103

400年ブナ 特集

「400年ブナ」倒れる～次の世代へ～

令和4年3月21日(月)に白神山地世界遺産地域巡視員より、岳岱自然観察教育林内の400年ブナが倒伏したとの連絡がありました。積雪等のため通行止めとなっていた県道二ツ井西目屋線の開放を待って東北森林管理局・米代西部森林管理署・藤里町の合同による現地調査が行われました。昨年は県道が通行止めとなる11月4日は立木として確認しており、それ以降の強風、降雪により倒伏したものと思われます。根倒れではなく、根元から折れていること、根際の土が掘り上がっていることから強風、また樹冠に降り積もった雪の重さに耐えきれず根元から、まさに倒壊したものと思われる。

倒れた400年ブナは関係機関と協議の結果、現地にそのまま保存し森のサイクルを間近に観察できる場所とし、天然更新の様子についても観察していくことで検討しています。白神山地のシンボルとして名をはせた400年ブナは倒伏してもなお白神のシンボルとして、また森林環境教育の教材としてその存在感を示すことでしょう。(谷川)



令和4年3月21日(発見当時)



令和4年4月22日



令和4年5月12日(倒伏した姿を現す)



令和4年5月25日(倒壊した根元部分)



令和3年10月撮影



令和4年5月12日撮影

400年ブナの歴史

岳岱自然観察教育林

400年ブナのある岳岱自然観察教育林は、昭和48年にレクリエーションの森（風景林）として指定され、その後、平成4年4月に自然観察教育林に変更されました。

世界自然遺産白神山地の周辺地域として、森林環境教育が出来る場所として、また身近で白神山地に触れ、森林浴が可能な場として親しまれています。

400年ブナの名前の由来

400年ブナは太さ1.54m、幹周り4.85m、樹高26mの巨木です。名前の由来は、昭和50年代に現在の多目的展示施設周辺にあったブナ巨木の枝が次々と落下し、遊歩道側にブナが大きく傾いてきたことから、危険木として伐倒した事がありました。伐倒したブナ巨木の年輪を数えたところ樹齢400年と推定され、巨木として親しまれてきた当時の「400年ブナ」の姿形（径級等）が同等であったため、以降「400年ブナ」と呼ばれるようになりました。

平成12年4月には林野庁が選定する「森の巨人たち100選」に選ばれ秋田県側における白神山地のシンボリック的存在となっています。

400年ブナ、これまでの姿

下の3枚の写真は、平成11年9月の台風により大枝が折損する前の悠々とした400年ブナの姿です。



平成7年10月撮影



平成8年5月撮影



平成10年6月撮影

平成11年9月の台風18号により400年ブナの北側の大枝が裂け落ち、樹形3分の2ほどになってしまいました。裂け落ちた大枝は長さ22m、枝周り2.66mでした。この大枝も、現地にそのまま保存することとしたので、現在もその姿が見られます。



台風18号により枝が裂け落ちた状況。写真は当時の被害状況を記録した写真です。平成11年9月27日撮影



裂け落ちた大枝の現在(令和4年6月) 23年経過した今でも裂け落ちた大枝の姿と倒木更新の様子が確認できます。



平成14年10月撮影



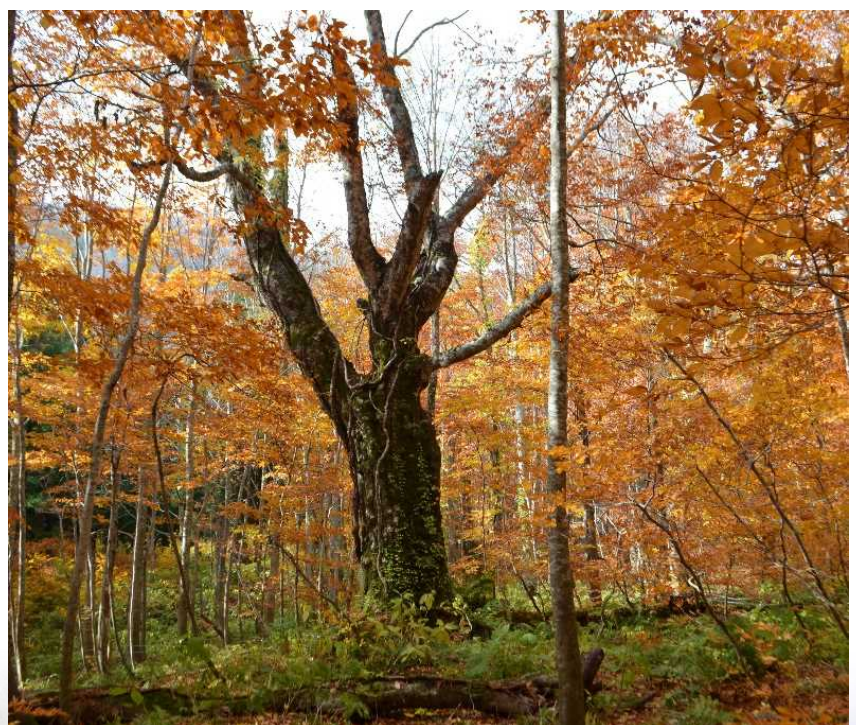
平成18年8月撮影



平成22年4月撮影



平成25年8月撮影



平成29年10月撮影



令和2年5月撮影



藤里幼稚園岳岱探検倒伏前最後の記念撮影 令和3年10月撮影

400年ブナ倒伏調査

令和4年5月20日、県道二ツ井西目屋線の開放と同時に400年ブナ倒伏の状況確認、今後の取り扱い等の検討のため東北森林管理局と藤里町による合同調査が行われました。当日は、白神のシンボルが倒伏といったことで多くのマスコミ関係者が取材に訪れるなど改めて、これまでの功績と樹勢が衰えても必死に耐え抜き天寿を全うした400年ブナに敬意を表したいと思います。



現地保存・安全確保のための立入禁止措置



囲み取材を受ける唐澤森林整備部長



倒伏状況の調査

令和3年度 中・大型哺乳類調査を終えて

藤里森林生態系保全センターでは、白神山地世界遺産地域モニタリング計画に基づき、例年秋田県側の白神山地周辺にセンサーカメラを設置して、中・大型哺乳類調査を行っています。

令和3年度の調査では、哺乳類・鳥類合わせて延べ2,433個体が撮影されました。その内撮影数の1位はタヌキで、延べ754頭撮影、2位キツネ 延べ355頭撮影、3位ツキノワグマ延べ259頭撮影となっています。また、ニホンジカやイノシシも撮影されており、ニホンジカは11箇所から延べ30頭が撮影され、その内オスが延べ25頭、メスが延べ4頭、性別が不明なものが1頭という結果となり、イノシシは1箇所から1頭撮影されました。

本調査の結果については、当センターホームページに掲載しています。そこでは、センサー

カメラの設置箇所、撮影された動物を月別、時間別、箇所別で集計した表を掲載しています。

「調査箇所は何処?」「白神山地周辺では、どんな動物がいるの?」といった調査に関する疑問や、これから行楽シーズンで山に登る方の「この辺りにもクマはいるの?」「危ない時期はいつ?」等の疑問にもお答えできると思いますので、興味のある方は当センターホームページをご覧ください(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/zyouhou/tyousa.html>)。

また、令和4年度も引き続き調査を実施しております。センサーカメラでしか撮影できない至近距離の映像や、人の前では見せない自然な動物達の姿など随時ホームページで紹介していくので、是非ご覧ください。(入山)



延べ撮影数 No1のタヌキ



延べ撮影数 No2のキツネ



延べ撮影数 No3のクマ



八峰町で撮影の雄鹿



ウサギ?を啜えて大喜び



クマにカメラが壊される瞬間

第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)

白神山地への入山シーズンを迎えるにあたり、今年度第1回巡視員会議を6月2日(木)、八峰町文化交流センター・ファガスにおいて開催しました。

会議には、今年度新たに巡視員の委嘱を受けた2名を含む巡視員13名、連絡会議構成機関15名が出席者し、事業計画や巡視員活動、入山マナー向上の協力依頼、合同パトロールの実施、ニホンジカ等の情報収集など、今年度の取組について確認をしました。

今後、白神山地には多くの方々が訪れると思いますが、樹木の損傷やゴミ捨てなどの違法行為が毎年発見されています。入山者には巡視活動をご理解いただき、入山マナーを守り、豊かな自然を満喫し、楽しい思い出を持ち帰っていただくよう、関係機関、関係市町村、巡視員の方々と連携し普及啓発に努めていきます。(山内)



巡視員の皆様の活発な発言



新規巡視員の西村さん



新規巡視員の辻さん



巡視員の小森さん



巡視員の高瀬さん



巡視員の佐藤さん



巡視員の梅田さん

地域から

藤里町に移住して

白神山地世界遺産センター（藤里館）
自然アドバイザー白鳥 万里



白神山地世界遺産センター(藤里館)に勤め始めて三か月と少しになりました。二十年ぶりだと話す方もいる豪雪から、あっという間に訪れた春、短い期間でさまざまな白神の顔を見られたのではないかと感じています。

白神山地について、私が就職前に持っていたイメージは、「世界遺産」、「ブナの森」、この二つだけでした。ちらほらとブナの大木が残る富士山麓で生まれ育った私にとって、ブナは幼少から、なじみのある大切な樹種だったので、ブナの森を紹介するお仕事をしたい、と強く思って、自然アドバイザーを志望しました。勤務が始まったのは今年2月からでしたが、昨年度から月に一度、研修として白神山地の様々なフィールドを経験させていただきました。まだまだ勉強中ですが、実際フィールドに足を運んで最も驚いたのは、教科書に出てくる「白神山地らしい」森の風景は、実はそんなに見られないということです。

落葉広葉樹林ゆえに季節ごとの表情の変化が顕著ですし、ひとくちにブナの森といっても、立地による湿度や風の強さ等の違いによって、樹皮に多くついている地衣類が違ったり枝の広げ方が違ったりと様々です。



小岳の山頂へ



冬のブナ林

また沢の多さ、川の大きさや水量にも驚かされました。
いろいろな顔を持っているのが「白神山地らしさ」なのかと今は感じています。

藤里町に移住しても、白神山地の冬はどうしても行ける場所が限られます。来館いただいた方々に生で見せる事が出来ないなか、魅力をどう伝えるかを模索しつつ、行ける範囲で歩き回りました。

尋ねることができるエリアが限られていたからこそ、この数か月はゆっくりでも確実に変化している白神山地をたくさん目にすることができたと思います。

空の色、徐々に薄くなる雪から不意に「ばさり」と起き上がる若木たち、その樹皮に見えるウサギの食痕、ブナの枝先には膨らむ無数の花芽・葉芽が見せる小豆色の靄等、光線の加減や気温、自分の体調(周囲を見回す余裕の有無等)によって、いつも違う発見がありました。

いよいよ春が来て、足を運べるエリアも一気に広がります。どんな発見があるのか、どんな新しい白神山地の顔を見られるのか、本当に楽しみです。



田代岳のキノコ

編集後記

ここ最近では、新型コロナウイルスの感染者も減少し、感染症対策をとりながらも日常生活の回復傾向にあります。繁華街もまばらだった人影がぼちぼち増え始めているような感じがします。

白神山地世界遺産地域の周辺においても、にわかに賑わいを見せており田苗代湿原の水芭蕉観察、駒ヶ岳登山、岳岱散策、あちらこちらの笹藪からはガサガサと竹をかき分ける音、林道沿いには、細い棒を片手に沢に向かう人たちをよく見かけます。

昨年度の藤里森林生態系保全センターの行事については延期や中止、会議はリモート活用により実施していましたが、ここ最近では、世界遺産地域巡視員会議の開催、藤里幼稚園の岳岱探検が行うことができ、これからは、NPO 法人あきた白神の森倶楽部主催の「能代高校二ツ井キャンパス校生と一般市民によるブナの植樹」、「合川小学校森林環境教育」、白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関と巡視員による白神山地遺産地域及び周辺地域の「合同パトロール」が予定されています。

さて、今回の白神通信は、これまでの生存と功績に感謝の意を込めた「倒伏した400年ブナ」を特集コーナーとして掲載しました。これまで撮影してきた400年ブナの立ち姿や倒伏後の姿を年代順に並べてみました。いつも同じ形のように、いつも違った姿を見せてくれます。

これからは、倒れてもなお「森林の循環」といった森林環境教育の教材として、これまでと同じ場所で訪れる人を出迎えてくれることでしょう。これまでご苦勞様でした。そして、ありがとうございました。敬礼



(発行)林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター



TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>

